

スイートコーン栽培マニュアル

令和5年3月
福井地区園芸タウン推進協議会

グリーンな栽培実践ポイントについて

1. 施肥方法

- 保肥力を高めるため、作付け前に堆肥または腐植質資材を投入する。
- 肥料の無駄を減らすため、畝立て同時施肥機等による畝内施肥を行う。

施肥基準

〔施肥基準①〕 基肥一括体系 (kg/10a)

肥料名	基 肥	追 肥
堆肥	2,000	
マグエース	80	
発酵鶏糞	200	
CDU555	130	—
成分量	N:25.1 P:27.5 K:24.7	

〔施肥基準②〕 基肥+追肥体系 (kg/10a)

肥料名	基 肥	追 肥※
堆肥	2,000	
マグエース	80	
発酵鶏糞	200	
アグリフラッシュ	90	50
成分量	N:25.2 P:27.6 K:24.8	

※追肥時期：本葉6～8枚頃
(定植後約1ヶ月頃)



写真1 追肥期の様子(本葉8枚目展開)

2. 畝立て・マルチ被覆

- 地温確保のため、定植1週間前に畝立てし黒マルチで被覆する。
- 栽培終了後のマルチ剥ぎ作業を省力化するため、マルチは生分解性のものを活用する。

※生分解性マルチ製品(例)：サンバイオ、きえ太郎Z、ビオトップ



写真2 機械による生分解性マルチの展張

写真3 栽培終了後の生分解性マルチと残渣のすきこみ

3. 主要病害虫の防除方法

- アワノメイガとアブラムシを中心とした防除を行う。
- アワノメイガが茎や果実の中に食入しないように、適期防除を徹底する。
- 雄穂出穂期のドローン防除は効果がやや劣るため、ドローン防除は雌穂絹糸抽出期以降とする。また、防除効果を高めるため機能性展着剤を活用する。

防除体系

	使用時期	薬剤名	適用病害虫
①	生育初期	ガードベイトA	ネキリムシ
②	定植 30～40 日後	リゾレックス水和剤	紋枯病
③	雄穂出穂期	パダン SG 水溶剤	アワノメイガ
④	絹糸抽出期 (ドローン防除)	ベネビア OD	アワノメイガ アブラムシ
⑤	絹糸抽出期の7日後 (ドローン防除)	プレバソンフロアブル	アワノメイガ

※②、③は動力噴霧器等で薬剤を散布する。

※④、⑤は農業用ドローンで高濃度・少量で薬剤を散布。機能性展着剤（ドライバ等）を添加する。



写真4 雄穂出穂期



写真5 絹糸抽出期

栽培基準

1 圃場準備

- 額縁排水溝を前年秋に設置し、春先の排水や土壌乾燥を早期に促す。
- 畝立て直前に、トラクターを低速で運転し細かく深く耕起する。
- 定植時の地温を確保するため、定植1週間前には畝立てとマルチ被覆を行う。
- 畝幅150cm、天幅85cm、通路50cm

2 移植

- 本葉2～2.5枚の若苗(セルトレイ育苗)を移植する。
- 定植の2～3日前から外気に馴らし苗の馴化を行う。
- 株間25～30cm、条間40cm、2条千鳥植え

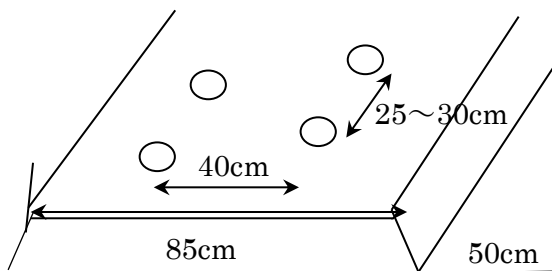


図1 畝立てと定植間隔



写真6 移植適期の苗



写真7 定植後の圃場

3 鳥害対策

- カラスによる被害をなくすため、黒いテグス等を圃場外周や地上部に張る。
- 周囲は3段張りとし、地上高30cm・1m・2m位に張る。

